

# 令和4年度北海道・東北体育・保健体育ネットワーク研究会 岩手わんこそばラウンド報告書



11杯目！

令和5年2月4日(土) 岩手大学 ※ハイブリット対応

参加者 名(宮城、福島、山形、東京、神奈川、大分、鹿児島、岩手)

学生、小中高の教員及び指導主事が校種や立場を超えて、体育授業研究事例の発表と「思考・判断・表現の努力を要する児童生徒への支援(手立て)」について語り合い、有意義なラウンドにすることができました。

## 1 実践発表「学習指導要領の趣旨を踏まえた体育授業研究事例」

発表①「知識・技能を高める体育授業の創造」－教師・児童がかかわることを通して－

【実践校】 盛岡市立北厨川小学校

長年にわたり体育を校内研究の核に据え実践を重ねている本校において、若手の育成とベテランのブラッシュアップにより学校全体で指導力向上を図るための実践です。

- ①体育の原則(運動量の確保、かわかり、セットメニュー、適切な時数の確保)を数値で検証
- ②知識・技能を高めるために、視点を明確にし子供体が主体的に思考・判断・表現をする場を確保するという一連の指導

「よい授業の在り方」について共通理解を図りながら、授業研究会が実践されており、研究協議においても、どの年代の活発な意見交流がなされていました。今後も、指導要領のねらいとこれまでの実践を改善しながら、よりよい実践が行われることが期待されます。

発表②「確かな学力を身に付け、進んで運動に取り組む子の育成」

－体育科カリキュラムマネジメントと授業改善を通して－【実践校】 一関市立花泉小学校

小学校における体育授業の課題を改善するため体育主任だけでは実現が難しい中で、管理職の協力のもと以下の実践を紹介していただきました。

- ①組織づくり ②目指す体育授業の共有 ③単元配列の見直し ④体育的行事の改善
- ⑤60運動週間を通した体力向上取組 ⑥授業改善(単元計画票の作成、授業のパッケージ化、客観的分析方法を生かした授業改善)

「体育の研究推進校ではない普通の学校で、普通の体育の授業が、普通に行われるように」という願いが実を結び、体力テストや意識調査の数値が改善されたことから、「わかる・できる喜び」を感じている子どもがどんどん増えてきました。

## 2 ワーク「思考・判断・表現の努力を要する児童生徒への支援(手立て)」

小学校高学年のボール運動(ゴール型)をもとにボール操作とボールをもたないときの動きについて、グループで話し合いました。

どのグループからも話が出てきたのは、「土台をそろえる」ということでした。経験値が異なる中で、全員がゲームに参加し、楽しむために共通理解すべき言葉や動きを整えることが教師として必要だという意見が出されました。教師と児童、児童同士でよい動きを共有することから始めたいと思いました。

